

『この本、いかがですか？ 2019年』

柴田春子

【うつくしい絵】

かこさとし 著 偕成社

「だるまちゃん」「からすのぱんやさん」でおなじみの『かこさとし』さん。

『ダ・ビンチのモナ・リザ』『ゴッホのひまわり』『レーピンのボルガのふなひき』『北斎の富士山』『ピカソのゲルニカ』等、とても有名な絵画を子供にも分かり易く、とても洗練された言葉、やさしい言葉で紹介してくれています。私は、美術に関して知識もあまりないのですが、実際に美術館で出会い、モナ・リザやゲルニカ等、非常に衝撃を受けたことを覚えています。しかしこの本を読むと、絵画に託された画家の思いやその背景等を知り、更に絵画の見方がガラッと変わりました。レーピンの、『おもいがけなく』という絵では、その背景を知ると、それぞれの人が動き出し、それぞれの声が聞こえてくるようです。本物を見たい！という思いに駆られます。

教えてもらう前と後 がこんなに違うなんて！という体験をしました。

親子で、絵画を見ながら、ゆっくりと何度でも楽しんでもらいたい！という一冊です。

余談ですが、「かこさとし」さんは有名な絵本作家として知っていたのですが、加古里子さんを、別の女性絵本作家だと思っていたトホホな時期がありました。

【絶望してる暇はない～ 「左手のピアニスト」の超前向き思考～】

館野泉 著 小学館

館野さんは、フィンランドでのリサイタル中、脳溢血で倒れ、右手の自由を失う。

しかしわずか2年後、左手だけで演奏を行うスタイルで復帰。

『目の前に大海原が現れ、うねり、ぶつかり、音が香り、咲き、爆ぜて飛沫をあげているような、そんな感覚になりました。ピアノに向かうと、左手一本で弾いているのに、音が立ち上がってきた。僕の前に、「左手の音楽」という新しい世界が開けてきました。』

私は友人のピアノコンサートで、シベリウスの「モミの木」という曲に出会いました。2分足らずですが、その美しい曲に魅せられ、スコアを探したところ、館野泉さんの編集。また、館野さん演奏のシベリウスの小曲集のCDがリリースされていたので両方を購入。左手のピアニストとして超有名な館野さんですが、スコアを見ながらCDを聴いても、絶対両手で弾いているとしか思えない。私は3年前に左手小指を骨折して以降、左手に力が入らず、特に小指には感覚があまりなく、「下手の横好きにしても、大好きなピアノも弾けなくなった・・・」と悲観していました。しかし、館野さんの超前向き思考に出会い、「9本も指が使える・・・！」と前向きになれました。「モミの木」を暗譜で弾けるようになったら、本物を見に行こう！というのが、私の密かな野望です。